

【目的】 既製服における肩パッドは、現在のファッションのセールスポイントとして欠くことのできない重要なパーツの一つとなっている。しかし、肩パッドには、肩パッドの大きさ・形・厚さ・素材などの種類が様々で、統一されておらず、また取り付け状態もまちまちである。そして必ずしも個人に適合したのではなく、動作やバッグの把持などによってシルエットに変化が生じ、特にずれに関する問題を抱えている。そこで本研究では、肩パッドのずれに焦点をしぼり、着用者の意識と着用中のずれについてアンケート調査を行い、ずれに影響を与える主な要因の抽出を試みた。

【方法】 調査対象は、女子大学生、学生の母親、大学職員など18～53才までの女性約40名で、アンケート用紙を配布し、記入させた。調査期間は、7月から9月の夏期である。調査項目は、1, フェイスシート、2, 肩パッド付き衣服の着用頻度、3, 肩パッド付き衣服の所持数、4, 肩パッド付き衣服の形態、5, 肩パッドの形態の5項目である。なおアンケート回収時に記入者の肩傾斜角度を測定した。

【結果】 肩パッドのずれは、衣服形態では、セットインスリーブよりドルマンスリーブが、丸衿よりV衿が、ゆとり量が小より大が、衿ぐりは小より大がずれ易く、また、肩パッドの形態については、半月形で、厚みは薄いものより厚いものが、長さは長いものより短いものが、取り付け方からは、取り付け箇所が少ないものがずれ易いという解答が得られた。すなわち、人体への接触度が低いほどずれやすい傾向が見られた。